

令和5年度（2023年度）一学期終業式

一学期、最後の一日となりました。明日から夏休みに入りますので私から皆さんにお話しをします。

今日は7月20日です。実は、54年前の今日、人類は初めて月面に立った日なのです。

「人間にとっては小さな一歩だが人類にとっては偉大な一歩だ。」の名言は、アームストロング宇宙飛行士が、人類で初めて月に降り立った時に、地球に送ったメッセージです。今は、月に基地を建てる計画があります。

昨年の4月に宇宙飛行士に成りたい人を選ぶ試験が始まりました。希望した人は4127人。今年の2月までにテストが繰り返され、最終合格者は二人でした。

宇宙は未知であり、何が正解か判らない世界です。どんな人が宇宙飛行士になれるのでしょうか。

今日は、二人の合格者のうちの一人、米田あゆさんについてお話しします。

米田さんは、宇宙飛行士の最終試験でなんと2つの大きな失敗をしていました。

一つ目の課題は、制限時間は100分で、月面で操作する探査機を設計することです。

二つ目の課題は、その探査機を使って得点を競い合い、30分以内にスタート地点に戻らなければ失格になるというものでした。

米田さんは、一つ目の課題で、探査機の設計で接続コードの数が足りなくなり、設計をやり直したのでタイムオーバーでした。

二つ目の得点を競うレースでは3チームのうち最高得点でしたが、スタート地点を間違えて帰って来たので、失格となりました。

でも、二つの大きな失敗をしても米田さんが合格したのは何故でしょう。それは、「4つの学び」の持ち主だったからです。

米田さんはタイムキーパーの役目もしていたので、指令室に「あと10分時間をください」とお願いしました。指令室からは、時間の管理や計画性について厳しく注意されました。このようなお願いをすることは、不合格になる可能性もあるのですが、米田さんは、折れない心で、現状をリカバリーしようとしたのです。

この行動は、まさに、学習の四本柱の「為すことを学ぶ」です。「為すことを学ぶ」とは、正解を求めるのではなく、最善を尽くすことなのです。

探査機のレースのあと、米田さんはなぜ失敗したのか、その原因を考えました。それは、宇宙飛行士に成りたいから少しでも高得点を得たいために無理をしたからです。ここで米田さんはあることに気付きました。失敗を分析するという「知ることの学び」が米田さんの「気付き」を生み、自分がやらなければならないことがハッキリしたのです。

米田さんの気付きというのは、宇宙飛行士になるということは、チームの一員になるということです。この気付きは、まさに「ともに生きることを学ぶ」ことです。

「ともに生きることを学ぶ」ためには、失敗を共有することが大切で失敗をお互いに知り、考えるということです。失敗を共有すると、新しいアイデアや対策が出てきます。

失敗を共有した新しいアイデアには、何が正解なのかわからない宇宙空間で、お互いを助け合う気持ちが詰まっています。それが宇宙飛行士たちのチーム力を向上させるエネルギーとなるのです。

チーム力の向上のためには、宇宙飛行士の一員であることを自覚し、行動することが最も大切になります。米田さんはいつも「宇宙飛行士としての学び」を実践していたから、4127人もの中から選ばれたのだと思います。

失敗から学んだことを仲間と共有して最善を尽くす、これが宇宙飛行士候補の米田あゆさんの学習の四本柱なのです。

さあ、明日から長い夏休みが始まります。始業式で話した大谷翔平選手のナインブロック。実践している人もいます。ナインブロックを活用してみるのもいいですね。

自分で決めた目標を達成するために、うまくいかない時がきても、心を折らずに最善を尽くしてください。